

和6年度学校評価

達成率 A: 90%以上 B: 70%~89% C: 50%~69% D: 49%以下
 ※自己評価の平均値は、達成率を数値化したもの。(A: 4 B: 3 C: 2 D: 1)

学校の自己評価				学校関係者評価	
	方策・具休策	自己評価 (平均値)	○成果 ■課題	関係者評価	意見・提言
1	学校は、学校教育目標達成に向けて適切な教育活動を行っている。	3.4	○児童一人一人のよきやがんばりを認め、ほめる教育を心がけ実践している。 ○教職員一人一人が、個々の専門性を生かしながら、チームワークを發揮し、職務にあたる事ができている。	3.6	○良い取組状況だと思います。今後も継続した取組をお願いします。 ○ほめる教育は続けてほしい。 ■校内では「～さん」と呼んでいるが、外では呼び捨てにしている。(目上に対して)
2	学校は「めざす学校像」に向けて、校務分掌等で組織的に対応を図っている。	3.4	■あいさつ、時と場に応じた言葉遣いや態度について、教師が模範を示しながら、児童にも指導していく必要がある。		
3	教員は、「めざす教師像」達成をめざしている。	3.4			
4	学校は、信頼の向上に努めるため、積極的にマナーアップの実践に取り組んでいる。	3.4			
5	教員は、ICTを活用するなど児童がわかりやすく個に応じたきめ細やかな授業を行っている。	3.4	○各教員が工夫を凝らして授業を行うことができている。 ○校内研修、研究発表会を通し、児童の学習意欲の向上や教員の授業力向上を図ることができた。 ○ICT端末を書く活動や話し合い活動にも取り入れ、より効果的な活用を進めている。	3.4	○良い取組状況だと思います。この取組がより良い成果となることを期待しています。 ■低学年の端末はむずかしいが、あきらめさせないで意欲をもたせてほしい。
6	学校は、基礎基本の定着、学力向上を目指した教育を行っている。	3.3	■主体的対話的な深い学びの実現に向け、引き続き授業改善を図っていく。 ■低学年におけるICT端末の活用方法について研究していく必要がある。		
7	学校は、学習規律の確立を図る取組を行っている。	3.2	■話し合い活動を充実させ、児童が自治的に学級や授業を作っていく力を身に付けさせる必要がある。		
8	学校は、話し合い活動の充実を図れるよう取り組んでいる。	2.9			
9	学校は、児童が学校や地域であいさつができるよう指導に努めている。	3.4	○校内や下校時は気持ちの良いあいさつができる。校外学習でも、施設の人やバスの運転手に進んであいさつすることができる児童が多い。	3.6	○あいさつ指導は、継続した取組の成果が見られます。 ■読書については、今年もまた保護者と児童との評価が分かれているのが残念です。一工夫考えていただきたいと思えます。 ■読書をするのとバッチをもらっていたようだが、今は廃止でしょうか。もらうと嬉しいらしいです。
10	学校は、ほめる教育を念頭におき、心の教育を推進している。	3.5	○図書室利用の時間を確保したり、読書週間の取組により、進んで読書活動に取り組む児童が多い。 ○道徳の授業を核としながら、心の教育を推進した。		
11	学校は、読書活動を計画的に取り入れ、推進している。	3.1	■朝のあいさつは、屋間と比べ元気がない。 ■家庭での読書習慣に関する評価が低い。読書活動のさらなる充実が求められる。		
12	学校は、児童の体力を向上させるための指導を行っている。	3.5	○体育朝会のサーキットや、体力テストのレクチャーなど、体力向上に向けた取組ができた。 ■限られた時間の中での、工夫された体力向上に係る取組が必要である。		
13	学校は、「上平北小みんなのやくそく」が身に付くよう指導を行っている。	3.4		3.4	■取組の成果が結果として表れていないのが残念です。
14	学校は、いじめや不登校などの問題に迅速に対応し、適切に指導している。	3.2	○ユニバーサルデザインを意識した教室環境や授業展開を工夫することができた。 ■いじめ対応については、研修等の充実と、確実な報告・連絡・相談体制の構築が求められる。		
15	教員は、積極的な生徒指導を推進している。	3.6	■施設老朽化に伴い、計画的な修繕が必要である。		
16	学校は、施設設備の点検を定期的に行い安全な環境づくりに努めている。	3.7			
17	学校は、個人情報の管理や会計事務等を適切に行っている。	3.6	○確実に会計処理を進めることができた。 ■確実な会計処理とシンプルな会計処理システムの両立を図る必要がある。	3.6	○とても良い取組状況と評価します。 ■地域で見守り隊を組んでいるが、報酬をもらっていると思っている保護者がいる。あくまでボランティアなのでミスのないよう連絡してほしい。 ■帰りのトラブルとはどのような件が多いのか。解決は難しいのか。
18	学校は、登下校の安全指導を積極的に行っている。	3.4	○下校時の児童間トラブルが多く、定期的な安全指導を継続するとともに、地域とのより一層の連携が必要である。 ■学校応援団については、登録の仕方と連絡体制の見直しが必要である。		
19	学校は、学校応援団等地域や保護者と連携した教育活動に取り組んでいる。	3.3			
20	学校は、学校だよりや学年だより、HP等教育活動を公開して説明責任を果たしている。	3.3	○HPを定期的に更新し、本校の教育活動について、保護者や地域に発信することができた。 ○保護者への配付文書をさくら連絡網で送付することにより、教職員の負担軽減につながった。 ■HP以外の情報発信を検討する必要がある。		
21	学校は、幼・保・小・中の連携を活かした教育活動に努めている。	3.3		3.6	○良い取組状況と評価します。 ■保護者会の出欠の割合はどうか。 ■家庭で味噌汁を飲む子が少ないらしい。(親も忙しい)